国語

平成２２年度埼玉県小・中学校学習状況調査において、県、南部管内ともに正答率(%)が低い問題

◇小５国語「文章全体を見通して、書く必要のある事柄を選ぶ」問題→8(1)県４９．８%、南部管内５０．３%
(2)県８．８%、南部管内８．９%

8 五年一組では、バリアフリーについて調べて分かったことをまとめて、みんなに知らせる文章を書くことにしました。あとの問いに答えましょう。

※バリアフリー…高れい者やしょうがいのある人たちが生活していく上で、バリア(さまたげ・じゃま)になるものを取りのぞいて、だれもがくらしやすい社会をつくっていこうとすること。また、そのようにつくられたもの。

(1) 次の１～４は、たかおさんの取材カードです。この中で、書く内容として**ふさわしくないもの**はどれですか。次の１～４の中から一つ選び、その番号を書きましょう。

1
・バスや電車には、ゆう先席がある。

2
・だん差がある所には、ゆるやかな坂がつくられている。

3
・駅のホームには、エレベーターがある。

4
・交通量が多い道路には、ガードレールがある。

(2) ともこさんはバリアフリーについて調べた中から点字ブロックについて、左にあるように「初め」「中」「終わり」の組み立てで自分の考えをノートにまとめています。「中」で調べて分かったことを知らせ、「終わり」に一人一人ができることについて読む人に呼びかける内容の文章を書くことにしました。

「終わり」の［　　］の中に入る内容を、左の《注意》にしたがって書きましょう。

《注意》
一　「これから、一人一人ができることは、」(書き出し)に続くように書こと。
二　二つの文で書くこと。
三　読む人に呼びかける文章になるように書くこと。
四　書き出しの言葉をふくめないで、四十字以上六十字以内で書くこと。

初め	中	終わり
わたしは、バリアフリーについて調べる中で、目の不自由な方たちにとって、点字ブロックがとても大切なものであるということを知りました。	点字ブロックを気にしながら町を歩いてみると、点字ブロックは、歩道や駅のホームなど、町のいろいろなところにありました。 しかし、点字ブロックの上に自転車がとめられていたり、荷物が置かれていたりするところもありました。	これから、一人一人ができることは、 60　40

◆指導上の改善ポイント

(1)の問題の正答は４である。　問題文に「バリアフリーについて調べて分かったこと」とあるが、４だけは、バリアフリーに関係する高れい者やしょうがいのある人たちの生活に、直接関係するものではない。

(2)の問題の正答例は「点字ブロックの上に自転車や荷物を置かないようにすることです。目の不自由な方たちが安全に通れるようにしましょう。」である。　二つの文で書く、という条件から、一つ目の文に、「中」で調べて分かったことを書き、二つ目の文に読む人に呼びかける文を書くことを押さえさせたい。

1　課題設定や取材に関する指導

(1)では、文章全体を見通して、書く必要のある事柄を選ぶことができる力が必要となる。そのためには、疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりする言語活動を展開したい。その際、調べた結果を友達に説明するなど、書く相手や目的を明確にもつことのできる場面の設定が重要となる。　平成２２年度埼玉県小・中学校学習状況調査報告書ｐ１３参照

2　構成に関する指導

(2)では、自分の考えを表現するため、構成を考えることができる力が必要となる。そのためには、上記1のような指導とともに、収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く言語活動を展開したい。その際、説明する相手や目的に応じて、本や文章、図表、絵画、写真、具体物などの資料を収集し、考えを高め、構成や記述のためにこれらの資料を活用することが重要となる。

平成２２年度埼玉県小・中学校学習状況調査報告書ｐ１３参照